

女性のひろば

おかやま女性情報誌 第4号
1993. 3.



●座談会「21世紀へのひとひと女と男のいい関係」

●おかやま女性フェスティバル

21世紀への **女** と **男** のいい関係

就職・結婚・家事分担

司会 今日は「21世紀への女と男のいい関係」について、みなさんと話し合いたと思います。「女性のひろば」編集室が行った、女子短大生アンケート（下記）にお答えいただいた木下さん、就職や結婚についてどうお考えですか。

木下 両親が共働きだったので、就職しても結婚したら家庭に入り、子どもと一緒にいたいという願望が強いんです。友達の中には、就職は腰掛けで結婚相手を捜すためという人もいれば、結婚はせずに仕事一本でやっていくという人もいます。

結婚については、私たちの世代の女性は自分中心で、自分に合った人が理想になっていると思うのですが……。



小林美紀さん
建部町在住
平成4年10月に結婚
市内の病院に臨床検査技師として勤務

小林 私は結婚してもずっと仕事を続けていけるということで病院に就職しました。今の職場は、結婚して子どもを産んでも、ほとんどの人が勤めを続けています。このことを相手にはっきりと伝えたら「自分にできることは何でもするし、お互いに協力しよう」という返事だったので、結婚しようと思ったんです。

司会 結婚を決めるとき、他にはどんなことを……。

小林 結婚相手は津山に、私は岡山に勤めていますので、じゃあ家は真ん中辺にとい

うことで建部に住むことにしました。どちらかが無理することはないと思ったんです。今、料理を作るのは私ですが、片付けや洗濯、掃除は悪いとは思わないでしてもらっています。

司会 原田さんは結婚前には就職なさっていたのですか。

原田 私は結婚して子どもを産んでもずっと働きたいと思って公務員になりました。

結婚を決めるとき、具体的な話はしなかったのですが、結婚後も仕事は続けていました。でも第1子を妊娠したとき「子どもは母親が育てるのがいちばんいい」という夫の意見で勤めを辞めました。

司会 ふたりで家事を分担してということはないのですか。

原田 夫の帰りが遅く、あまりできなかったですね。

司会 岡さんはいかがですか。

岡 私の父は帰宅も遅く、家庭のことはほとんどタッチしなかったもので、家庭のことを顧みる男性が結婚の条件でした。

私は歯科衛生士として働いていたので、結婚後も仕事は続ける予定でしたが、妊娠中の体調が悪く入院し、退職しました。私の入院中、夫はひとり暮らしができずに実家に帰ってしまいました。この時、男性でも家事ができないといけなと感じました。

8年間家庭にいた後再就職し、最近では子ども会やPTAの仕事なども加わって日曜もないほどですが、その時その時「ちょっと手伝って」と声をかけると助けてくれるようになりました。

司会 じゃあ、入院中に実家に帰ってしま

われたときは、ずいぶんと変られたんですね。



岡典子さん
曾根在住
家族 夫、小6、小3
バス会社営業所に勤務

岡 縦のものを横にもしなかった人が、自分も出ないし仕方ないんだなと「仕方なく」が積み重なって……。 (笑い) 夫の母も感心するくらい変わりました。

司会 それはよかったですね。原田さんもそういうお話がありますか。

子どもを育てる

原田 私も働き続けられなくなったこと、初めての育児とが重なって、ひどく落ち込みました。でも次第に家庭に入ったことが間違いではなかったと考えられるようになりました。

はじめは仕事中心の生活だった夫も、子どもが3人4人になり、下の子どもをおんぶにだっこして、上の子どもたちに声かけしながら朝食を作ったり洗濯をしている私の姿を見て、少しずつ手伝ってくれるようになりました。

司会 女子短大生アンケートでも、男性にいちばん参加して欲しいのは育児でした。

編集委員 男女共同で家庭生活を営むのが当たり前という社会になってきていますし、これからは残業の減少や土曜休日によって、男性も育児に参加できる時間的余裕ができるのではないのでしょうか。

原田 夫の勤めていた会社は休みがほとん

どなくて……。夫は「このままだと家族がばらばらになってしまうかもしれない」と考えるようになり、去年の5月に勤めを辞めました。それから1年間は、これから先どんなことをしようかと悩み、でも辞めたことは間違いではなかったと話し合いながらきました。この時、子どもというのは本当にふたりで育てるものだとつくづく思いました。夫が次第に育児に参加したいと思うようになり、家事にも協力してくれるようになってきました。

社会の理解と女の勇気

司会 さて、今までのお話から、家庭の中で男女の役割分担が少しずつ変わってきている様子が伺えました。

次は女性が社会で働く場合の問題点について、いろいろお気付きのことをお話してください。

木下 私は愛媛・広島を中心にしたスーパーに事務職で就職が決まっているのですが、秘書士の資格を生かして、同じ事務でも秘書の役職に付きたいと思っています。友達の中には保母などの資格があっても、それを生かさず就職を決めている人も多くいます。

司会 岡さんは再就職なさるとき、歯科衛生士ということにはこだわらなかったのですか。

岡 家庭に入り全部をゼロにしてからの再就職では、専門職はちょっと怖いんですね。使用する医療器具も薬品も、どんどん新しくなっていますから。再就職のための短期の研修機関があればと思います。それに歯



木下昌美さん
西川原在住
親元を離れて遊学中
市内短期大学2年生

科医院は夕方7時頃までの勤務ですから、家庭との両立が難しいです。職場が家から近いところという条件を大切に、パートで再就職しました。

小林 私の勤務先では、産後休暇の後、搾乳時間が午前1時間・午後1時間取れます。この時間を利用して5時までの勤務を3時で切り上げて帰ることもできます。男性も育児休業を取っていることになっていますが、まだ女性の中にも取った人がいません。だれかひとりが先駆者になれば……。

司会 小林さんが第1号になって育児休業をお取りになっては？

小林 そうですね。勇気があれば取りたいと思いますけど。人員補充をなかなかしてもらえないので。補充のために1年間のパートを捜しても、条件が噛み合わなくて見付からないんです。

司会 制度があっても、制度を使うまでの勇気があるんですね。

それでは最後に、みなさんがこれからパートナーと共に歩いていく上で、ご自身の努力も含めて大切にしたいことや将来の夢などをお話してください。

大切にしたいこと

原田 夫は1年間の休養の後、ハウスを建てて有機栽培で野菜を作り始めました。有機栽培にはしていますが、無農薬というの

は本当に難しい。今は子どもが小さくて無理ですが、将来は家族で農業をやりたいなと思っています。

岡 夫婦の間で会話がなかったらとても寂しいですね。ふたりが共通の趣味を持っていたら、話もできますから……。

6年前からママさんバレーを始めました。最初は夜外出するのをすごく反対していたのが「ちょっと見に来る？」といってひっぱり出しているうちに、夫もコーチになりました……。 (笑い)

小林 結婚してから、相手を思いやるというか、言うてはいけないことがあると気付きました。また、「ありがとう」と口に出している習慣をつけなければとも思いました。「こうしてくれればいいのに」「あしてくれればいいのに」というより感謝の気持ちを大事にして、お互いやっていきなと思っています。

木下 私たちの年代は、まだ理想ばかりを追い求めている段階で、みなさんのお話を聞いていて、今まで自分を軸に相手が歩み寄ってくれればいいという、わがままな考え方だったと気付かされました。相手のこと



原田由里さん
今在家在住
家族 夫、小2、
5歳、2歳、8か月
専業主婦

を理解していくことがいちばん大切だと思いました。

司会 長時間お話しただきありがとうございました。

情報コーナー

女子短大生アンケート

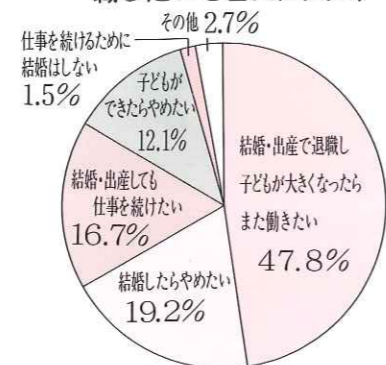
問1. 卒業後は？

就職したい 93.1%

問2. 結婚は？

結婚したい 79.3%

問3. 結婚と女性の働き方について現在のお考えは？ (問1で就職したいと答えた人に)

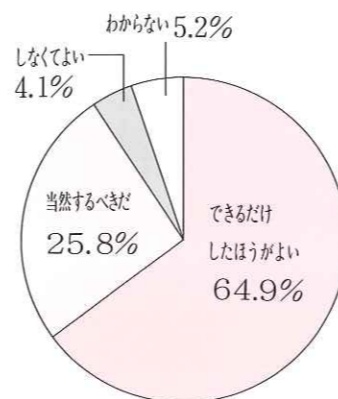


問4. どんな男性と結婚したいですか？

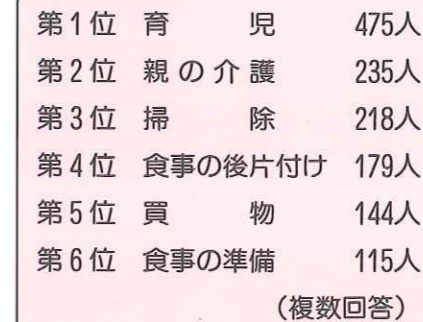


〈平成4年11月実施／対象：市内短大2年生 639人〉

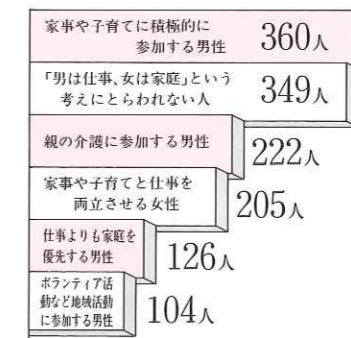
問5. 男性の家事・育児への参加は？



問6. 男性に分担してほしいことは？



問7. 21世紀に増えてほしい人は？



フェスティバル ミニ・イベントを企画して

初めて実行委員会に加わった。知らない人ばかりで実はとても緊張していた。でも、参加するからにはいいものを創りたいと最初から企画部を希望した。

「ウィメンズセンター岡山(準備会)」は女たちが自分自身の心や体について学び、お互いに支え合い、育ち合っているように、ささやかながら場(センター)を開設し、まずは週2回(木・金)活動を始めた。具体的にはニュース発行(隔月)、講座(思春期・更年期・連続講座)企画、情報提供、カウンセリング(有料)、CR、自己表現トレーニングなど行っている。現在、会員は150名余り。

センターを訪れて下さるいろんな女と出会って来て感じるのには、「自分の健康を自分で守る」というあたりまえのことがまだまだ女には保証されていないんだなあということ。フェスティバルでは是非「女と健康」というテーマをとりあげて、一生を通じて「私のからだは私自身の大切なもの」という視点を多くの女たちと確認し、共有し合いたいと思った。

幸いにもいくつかのグループが私たちの提案を支えてくださり、「女と健康シンポジウム」をミニイベントとして企画に載せることができた。このようなシンポジウムを開くことができ、岡山でもやっと一歩が踏み出せたかなという気がしている。「体の自己決定権」が女自身の手にはっきりと握られていかなければ、女はいつまでも人生の主人公にはなりえない。そのことを忘れずにこれからも歩いていきたいと思う。

実行委員会では、年齢や立場を越え、それぞれの知恵や力を出し合いながらフェスティバルを皆で創りあげていくという醍醐味を味わわせていただいた。すべてを終えた今、しみじみと友情を感じている。

ウィメンズセンター岡山(準備会) 市場 恵子



あかやま女性 1993 フェスティバル

どんな人もその個性や資質を生かし、男女がともに豊かに暮らせる社会の実現をめざす「あかやま女性フェスティバル」が2月3日から2月14日まで市民会館、市民文化ホール等で開催されました。

14日のメイン・イベントには女性学などの分野で活躍している講師とあって市民会館は若い世代や男性の姿も見られ会場はほぼ満員の大盛況でした。

女と健康シンポジウム(2/7)

「私のからだは私のもの」

コーディネーター ヤンソン柳沢由実子
シンポジスト 赤松 彰子 金重恵美子
角田由紀子 村尾 旬子

妊娠、出産、更年期など女の体に起こることについて女性自身が自分の体を知って大事にするという意識を持つこと、おかしと思うことは声に出し行動していくことが必要。

●メイン・イベント(2/14)

基調講演

「自分らしく生きる」——女と男の曼陀羅圖
駒尺喜美さん

日常生活のいたるところに網の目のように張りめぐらされて見えにくくなっている性差別をとばらっていくには、世間の常識に迎合せずおかしいことはおかしいと言おう。

シンポジウム

「これでいいのか女と男」
コーディネーター 上野千鶴子
シンポジスト 春日キスヨ 野田 泰洋
福島 瑞穂 ハツ塚 実

結婚観や法律が変わっていく時代にあって、家庭で、職場で、地域で、女も男も共に心地よく暮らしていくためには、個々人の考えも変えて行かなければならない。



ミニ・ドラマ(2/7)

「岡山をもっと知りたい」、そして「女も男も豊かに生きる社会を実現したい」というのが、私が実行委員として「あかやま女性フェスティバル」に参加させて頂いた大きな理由でした。そして、フェスティバルの開催を迎え、実行委員としての活動を通じて、これらの希望を満たす足がかりが得られたと感じています。

「岡山をもっと知りたい」理由は、私がこの土地に定住して現在わずか一年あまりということですがこの度の活動を通じてさまざまな人々、特に岡山の女性たちと世代を越えて知り合うことが出来、教えて頂いたことも多く、岡山を色々な視点から見る事が出来たと感謝しております。

「女も男も豊かに生きる社会の実現」は遠い道程ではありませんが、それぞれアプローチは違っても、同じ思いを持つ女性たちが沢山おられることに勇気づけられました。私たち一人一人が人間らしく快適な暮らしを、尊厳のある人生を送りたいねとごく普通に話し合い考えることは、世の中の矛盾を一つ一つパズルのように解き明かし、全ての人の幸福につながっていくのではないのでしょうか。

このフェスティバルが、一つの契機となることを私個人の感想とさせていただきます。

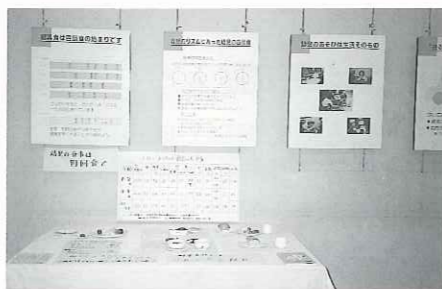
岡山女性フォーラム 坂本安輝子

幼児と暮らすための情報展(2/7)

——子どもの成長を助けるために——

何回か会を重ねるごとに次々と意見が出され、若い方々の積極的な考え方に勉強することが多く、封建的な農村での女性の生き方を社会の変遷に対応することの大切さを痛感した。私は特に高齢化する農村において今回のテーマは若い人達ばかりでなく女性全体の問題であると考え、岡山地域の農協婦人部に呼びかけ、是非この様なチャンスに勉強してほしいとすすめた。又、私達の地域では丁度、暮らしと健康を守る運動の期間であったので、各班会でこれからの女性の生き方の大切さを訴えた。家にいて老人としてひとりぼっちにならない為にも広く世間の流や世代の考え方にも自分なりに受けとめ、家庭の中でも、社会の中でも話のできる暮らしを考えるよい機会である。今までフェスティバルがあると聞いていたけれども、あまりPRはできていなかったのもっともっと多くの人に参加できるように、これからも皆に呼びかけていこうと決めた。

岡山市農村女性協議会 高尾寿賀子



自由・協力・愛によるよい社会を築いていきたいと願っている私達婦人友誼者の友の会としては、男女共同社会をめざす行動計画に共鳴し参加しています。第1回あかやま女性フェスティバルは仕事を持つ女性が対象と伺っていましたが、第2回からは範囲が拡がり仲間の一員となりました。専業主婦ばかりが集まって昭和2年岡山友の会は生まれましたが、今は3分の1が職業を持つ女性の集まりとなった今フェスティバルを構成する21団体の方々と交流できることによって、大へんよい勉強をさせていただいています。一昨年春、葦川会館で「人一生の生活展」をしたことで皆様に知っていただいたのが仲間入りのきっかけでしたが、いろんな女性団体を知ることで、自分達の団体の個性というものがよりよくわかってきたような気がします。

ほとんどの会合に子供がいる私達友の会は、今年は母子クラブ主催のファミリーコンサートに協賛して「幼児と暮らすための情報展—子どもの成長を助けるために—」の展示を見ていただくことができました。手づくりの温かさをひろめようと農村女性協議会の手づくりジュース試飲コーナーでご一緒することができました。

家庭生活に基盤をおき、愛を育て真実を培う家庭こそは友情に結ばれる社会の礎、明日の世界に平和を創る原動力です。

岡山友の会 光田 幸子

前夜祭(2/13)

「女と男の笑百科」

・落語 桂花枝
・パントマイム 山崎繁男 他
・漫才 非常階段 若井つづみ・みどり



・狂言 茂山 正義 茂山 正邦
田賀屋 夙生 中桐清四郎



パネル展示(2/3~2/14)

近代女性史のなかで、それぞれの分野の草分けとなり、大きな影響を与えた女性たち、岡山県出身の上代淑、近藤鶴代、杉山千代、西森元、人見絹枝さん等39人の生き様から今を生きる私たちに熱いメッセージが伝わってきました。

かしわ哲ファミリーコンサート(2/7)



「女性フェスティバル」に若い方ももっと参加してほしいということで、保健婦さんを通してお話がありました。母子クラブで検討した結果、ぜひそういう女性の社会進出につながることに積極的に参加したいし、母子クラブを広く認めてもらう良いチャンスでもあるので、参加しようということになりました。

当初は初めての参加でもあるし、深くは内容も知らなかったのですが話を聞いてお手伝いできればと、受身の体勢でいました。ところが参加してみると年輩の方達を中心という感じがありました。企画部会にも参加するようになったのを契機に、ぜひ若い方達が積極的に参加できる企画をしたいという思いが募りました。

乳幼児を抱えた母親が子どもを託児に預けてシンポジウム等に参加するのは無理があります。そこで子どもも一緒に参加できる企画をということで、ファミリーコンサートを考え出しました。子どもは歌で楽しみ、親はトークを通して社会の事を幅広く知ってもらいたい。タイの村へ支援しているかしわ哲さんはまさに打って付けの方でした。

当日は500人程のお客様で盛況の内に終わりました。母子クラブが実行委員に参加して、若い方達に女性フェスティバルを知ってもらおう一助になったかと思えます。

岡山市母子クラブ研究協議会 山田良子



男女共同社会をめざす

昨年女性児童課では、市民のみなさんから標語・川柳を募集しました。第3号に続いて今回は、川柳の優秀作品から5点をご紹介します。

川柳

共稼ぎ、いっしょか息子がコック長

宮尾 なす美

オうちりと意見を言うてから妥協

石原野 笛

気くばりは女ばかりに求められ

伊丹典子

余生とは失礼千万今が春

伊東伸介

三世代住んで程よい車間距離

竹原 汚痴庵



マンガは 織田洋介さん

ふりーとーく

うれしかった夫の協力

介護の情報を

「女性のひろば」を読ませていただきました。身近で興味ある情報を楽しくわかりやすく提供し、営利に利用されていないところがよいと思います。

予告にありました「介護」に関する情報を是非早い機会に実現してください。

一人住まいの老人の実体や老人ホームの種類・所在地・老人同士の交わり等、さまざまな角度での資料を紹介してください。

(北方・女性)

98歳の私の母は、昨年多発性脳梗塞で死の宣告を受けました。終末医療は家庭でと家に連れて帰り、手を尽くした甲斐があって奇跡的に回復し、今では入浴もひとりのできるほどになりました。

その間、昼間の介護でくれたの私にかわって、夜の介護の一切を夫が引き受けてくれ、また、入浴、暖房、加湿、ポータブルトイレの柵も手作りして女の私にできなかった部分を至れり尽くせりにしてくれました。

常々、夫に家事分担をしてもらっていたおかげだと、思っています。

片山富久子(津島・主婦)

男女ともに 学んでこそ



県立一宮高等学校 海野節子 教諭

待望の「男女共修の家庭科」が、平成6年度から高等学校でも実施されることになりました。

現在、高等学校普通科の教育課程では、男子の格技(柔道・剣道)と女子の家庭科がセットになっており、これは男女の固定的な役割分担意識を助長し、性差別につながっています。

普通科における家庭科教育の目標は、衣・食・住生活、保育・家族などに関する基礎的基本的な知識や技術を修得させ、家庭生活の充実向上を図ることです。具体的には、高齢化社会を迎えての家族のあり方、自立した消費者をめざす消費者教育、快適で清潔な衣生活、人生80年代を健康に過ごすための食生活、将来親となるための保育学習などを行っています。

これらはどれをとっていても、女子だけ学んでいたのでは不十分であり、男女共に学んでこそ家庭科教育の初期の目標を達成することができると思っています。そして、生徒もいろいろな単元で「こんなことは女子だけ学ぶべきだろうか?」と素朴な疑問を投げかけ、特に保育分野などでは「やっぱり男子と一緒に学びたい。男子もまなぶべきだ」と言っています。

実施にあたって文部省は、家庭科の単位数を4単位(卒業までに週4時間相当)と定めています。これは前述の内容を実験や実習をとおして指導するためには、最低限必要な時間数と思われるが、進路等の問題と相まって、実際には4単位実施することが困難な状況にあります。また、施設・設備面でも現在のものは女子向きに整備されているので、男女で使用するには適切でないものもあり、時代の進展に伴っていないものもあります。

家庭科の教師としては、生徒の実態に即した指導ができるよう指導内容や指導法の研究をすると同時に「家庭科の男女共修の必要性」をより多くの人々にご理解いただくよう努力をしなければなりません。

このように今後整備・準備しなければならないことはたくさんありますが、家庭科教育有史以来のこの変革期にあってそれらを乗り越え、21世紀に向けてこそ豊かな男女共生の社会を実現するために、家庭科の教師が手を携えて頑張らなければならないと思っています。

男性とか女性とか 意識しなかった



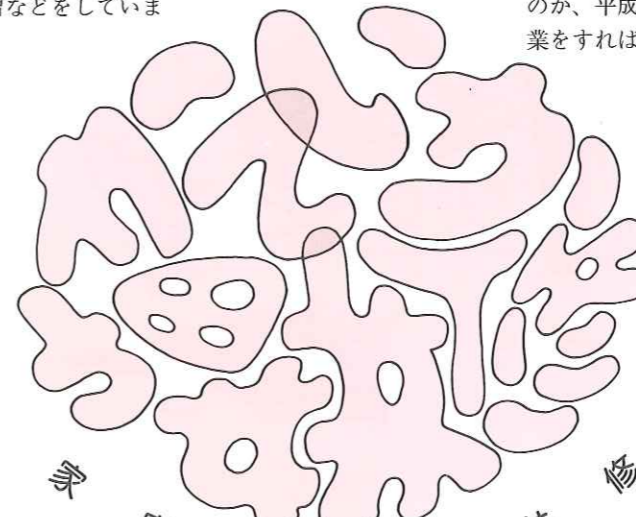
県立邑久高等学校 矢野啓三郎 教諭

幼い頃から何かを作ることが好きだった。卵焼きを作ったり、シュークリームを作ったりしていた。もちろん勉強するという意識はなかったが、何かを作ってみると物の仕組みやでき方などがわかって楽しかった。料理をすることに抵抗はなかった。特に女性の仕事とも男性の仕事とも思わなかった。小学校の家庭科の授業も楽しく受けた。やはり男性とか女性とか全く意識しなかった。オープンサンドがきれいにできた先生にほめられたことを覚えている。

平成3年度より邑久高校で家庭科を教えている。毎日考えることは、家庭科の内容は今のままでいいのかわ、平成6年度からの男女共修ではどのような授業をすればよいか、ということである。

家庭科は生活を扱う教科であるが、その内容に二つの側面をもっている。一つは生活を科学技術的に分析し、合理的な生活を考えるという面である。もう一つは生活を家族関係的な視点でとらえ、家庭の「あり方」を考えるという面である。この二つの面は生活を考えるという柱でつながってはいるが、お互いに別の方向を向いている。水質汚染などに始まる地球環境問題は前者であり、本誌のテーマの一つである「男女が協力して築く社会」などは後者にあたる。いずれも現代社会、現代生活に密着した問題であり、家庭科の授業で取り上げるに値する内容である。

「男が家庭科なんか」という意識はまだ根強い。平成6年度に向けて、社会から必要とされる家庭科の内容を考えていきたい。



HAJIMARU

HAJIMARU

	中学校	高等学校
現行	全17領域のうち、男子は技術系5領域・家庭系1領域以上。女子は技術系1領域・家庭系5領域以上履修。	「家庭一般」を女子のみ必修。男子は選択履修ができる。
新教育課程	平成5年4月から全11領域から7領域以上を履修。そのうち「木材加工」「電気」「家庭生活」「食物」の4領域は男女必修。	平成6年4月から「家庭一般」の他「生活技術」「生活一般」を新設。これらのうち1科目を男女とも履修。

ご存知ですか? ～「アファーマティブ・アクション」～

アファーマティブ・アクションは、アメリカで大統領行政命令として制定されたもので、国が強制力を持つ、積極的な差別解消政策です。人種差別問題から発生した制度ですが、後に性による差別にも適用されるようになりました。

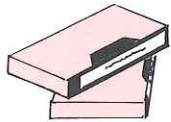
「機会の平等」だけでなく「結果の平等」を求めるもので、採用・昇進・退職・職場訓練等で男性が雇用上優遇されている現状を是正し、男性に占領されていた職種（高地位職・高賃金職等）に積極的に女性を採用しようとするものです。

日本でもようやく、このアファーマティブ・アクションについての議論が始められました。

アファーマティブ・アクションって何?!



ピースネットブック 5
「アファーマティブ・アクション」
(岩切垂矢子 作)より



新着ビデオのお知らせ

- ★しごと／女性が働きつづけるためには
(カラー10分)
- ★女たちの選択—男女共生時代—
(カラー30分)
- ★素敵にボランティア
—受け手の気持ちを考えて—
(カラー31分)
- ★親父が街に帰ってきた
(カラー31分)
- ★創造への旅だち 生涯学習パートII
(カラー31分)
- ★小西綾 見て考えて生きてきた
(カラー55分)

ビデオは小人数の集まりでも貸し出します。お気軽にどうぞ。
お問い合わせは女性児童課へ。

ごみの減量化・資源化にご協力をお願いします。岡山市



予告

今後、介護・パートタイム労働などについて取りあげる予定です。みなさんからのご意見や体験談をお待ちしております。

生き方
フリースタイル

男も女も

・4月10日～16日は、
第45回婦人週間です。

テーマ

性にとらわれず
いきいきと暮らせる時代を築こう

編集後記

男女共生に向けて、少しずつではあるけれど確かに女も男も意識を変えようとしているようです。
第4号、いかがですか。ご感想、ご意見などお待ちしております。

発行／岡山市民生局民生部女性児童課
岡山市大供1-1-1 ☎(086)225-4211
表紙制作／板野淑子
印刷デザイン／株式会社 橋本印刷所

本誌ご希望の方は女性児童課へ